

第3学年 英語科 学習指導案

1組 43名 授業者 高橋 誠
JTE 坪山 麻衣子

1 単元（題材） “What’s this?” （～Let’s quiz! Let’s be friends!～） Let’s Try!1 Unit 8

2 単元の目標

自分たちの好きなことを台湾の友だちに知ってもらうために、相手にクイズのヒントが伝わるように工夫しながら、身の回りの物を用いて、ある物を尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。

関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単や語句を聞き取るようにする。
話すこと（やり取り）	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり、質問に答えたりするようにする。

[言語材料] What’s this? Hint, please. It’s (a fruit). It’s (green). It’s (a melon). That’s right. Close.

[既習事項] I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don’t. No. Sorry.

色、形、食べ物・果物、動物、スポーツ、数（1～100）、アルファベット（大文字）

3 単元の評価規準

領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（「話すこと（やり取り）」）	”What’s this?” , “Hint, please.” や、色や形、食べ物、数などこれまで学習した表現について理解し、自分が伝えたいことについて、尋ねたり答えたりする技能を身に付けている。	台湾の友達に自分たちのことを知ってもらうために、相手にクイズのヒントが伝わるように工夫しながら、身の回りの物を用いて自分が伝えたいことを尋ねたり答えたりして伝え合っている。	台湾の友達に自分たちのことを知ってもらうために、相手にクイズのヒントが伝わるように工夫しながら、身の回りの物を用いて自分が伝えたいことを尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本学級の子供たちはこれまでの学習を通して、あいさつをしたり、数を数えたり、感情や好きなものを尋ね合ったりするなど、様々な活動を行いながら英語によるコミュニケーションに慣れ親しんできた。さらに子供たちは、昨年11月、台湾の小学6年生と実際に交流し、昔遊びを紹介して一緒に遊ぶ活動を行いながら、意思疎通の難しさや英語でコミュニケーションを図ることの大切さを経験している。

本単元では、既習の言語材料や、尋ねたり答えたりする活動、show and tell など、一年間の学習してきたことを総合的に活用する学習として位置づけ、クイズ形式でのやり取りを行う。今回は、台湾の小学生に自分たちのことをもっと知ってもらうためにクイズ形式で紹介することで、子供が意欲をもって学習に取り組めるものとする。そして、本単元を通して、言語の異なる相手にも英語を通してコミュニケーションを図ることができるというよさに気付かせるとともに、台湾の文化に対する理解や自分のことや、自分たちが住む地域、文化のよさにも気付かせたい。

(2) 教材について

本単元は、“What’s this?” “や”It’s ○○.”など、物などを尋ねたり答えたりする日常場面によく使う表現を、食べ物・果物、スポーツ、動物、数やアルファベット、色や形など既習事項を生かしながら、クイズ形式で楽しく相手とやり取りを行う活動である。ただ形式的にクイズを出題して答えるのではなく、クイズの出題者と解答者がそれぞれの立場に立ちながら、ジェスチャーや相槌などを交えたり、相手の反応を感じ取りながらヒントを出したり、答えを考えたりすることで、英語によるコミュニケーションを図ることのよさに気付かせようとする。

(3) 子供の実態（令和5年11月22日 41名）

学習内容に関すること								
調査 1	① 自分が覚えている英単語について（複数回答）							
	色	数（1～20）	食べ物・果物	スポーツ	アルファベット（A～Z）	形		
	29人	15人	21人	23人	20人	6人		
調査 2	② 英語でクイズ大会をだれと行いたい							
	1組の友達	2組の友達	台湾の友達（同学年）	台湾の友達（交流した6年生）	ALTやJTE	その他		
	9人	6人	9人	13人	3人	1人		
調査 3	③ クイズ大会でどんなクイズを出したいか							
	自分の趣味・特技	鹿屋のこと	鹿屋小のこと	学級のこと	日本の食べ物	日本のスポーツ	日本の文化	その他
	17人	0人	3人	3人	2人	3人	12人	1人

調査 4	<p>④ 調査②で「台湾の友達（交流した6年生）」を選んだ理由（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾交流をして給食とか食べたからまた話したいなと思ったから。 ・台湾の人とまたいっしょに、勉強をしたいから。 ・みんなで楽しくできると思ったから。 ・台湾の4人にクイズをやってほしいから。 ・もう一度台湾の人たちと一緒に遊びたいから。など <p>調査③で「自分の趣味・特技」を選んだ理由（自由記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに自分が得意なことを知ってほしいから。 ・みんなが楽しくなるから。 ・自分が得意なことがたくさんあるから。 ・自分の好きなスポーツがたくさん話せるから。 ・クラスみんなに、自分の特技や、趣味を知ってほしいから。 など
学びの姿に関すること () は人数	
調査 5	<p>ア 「自分の問い」を見いだすことへの意識</p> <p>○ 授業で、めあてや解決したいことを自分で決めている。 あてはまる (17) 少しあてはまる (16) あまりあてはまらない (6) あてはまらない (2)</p>
調査 6	<p>イ、ウ 「自分の問い」の解決への見通しを立て、自分の考えを見いだすことへの意識</p> <p>○ 授業で、どうしたらめあてや問題を解決できそうか、自分の考えをもち、手順や結果を予想しながら取り組んでいる。 あてはまる (16) 少しあてはまる (17) あまりあてはまらない (6) あてはまらない (2)</p>
調査 7	<p>エ 友達の考えと比較しながら、よりよい考えを見いだすことへの意識</p> <p>○ 授業で、自分の考えに友達（相手）の考えも取り入れると自分の考えがよりよくなっていくのを感じる。 あてはまる (27) 少しあてはまる (8) あまりあてはまらない (4) あてはまらない (2)</p>
調査 8	<p>オ 学びを生かし自分の考えを再構築することへの意識</p> <p>○ 授業で、詳しく調べたり考えたりして、いちばん「なるほど（なっとく）」と思う考えをつくりだしている。 あてはまる (18) 少しあてはまる (17) あまりあてはまらない (4) あてはまらない (2)</p>
調査 9	<p>カ 学びを振り返り、自己の変容と学ぶよさを自覚していることへの意識</p> <p>○ 授業で、分かるようになったり新しい発見があったりと、学んだことが深まっていっていると感じる。 あてはまる (22) 少しあてはまる (13) あまりあてはまらない (4) あてはまらない (2)</p>

【学習内容に関する調査】の調査1では、調査時点で学習中であった「形」を除き、既習事項としてほとんどのカテゴリーの表現を身に付けていることが分かった。調査2では、台湾の友達と交流を図りたい子供が多いことが分かった。2番目に多い学級内で行うことについては、練習や準備を通して実現できるものと考え。調査2～4の結果から学級の実態として、11月に交流した台湾の子供たちに対して、自分たちのことをもっと知ってほしいと考えている子供が多いことが分かった。

【学びの姿に関する調査】の調査5・6では、ほとんどの子供が自分の問いをもち、解決への見通しをもとうと考えているようである。さらに「あてはまる」項目への割合を高めるため、本時でも自分事として問題意識をもたせ、解決方法を極力、子供たちに考えさせていきたい。また、調査7より、子供たちは友達の考えと比較しながら、よりよい考えを見いだすことのよさを感じている子供の割合が多いことが分かった。本単元でも学び合う場面を多く設定して、よりよい学びにつなげたい。

5 指導上の留意点

(ア) 「自分の問いをもつ姿」を表出するために

単元導入時には、英語を使う目的や場面、状況等を明確にするような問題場面を提示し、Big Goalの設定につなげるようにする。各単位時間における導入では、見方・考え方を働かせて自分の問いをもつことができるようにするために、試しのやり取りをしたり、スキットを見たり、前時の困り感を振り返ったりする場面を設定する。

(イ) 「解決の見通しをもつ姿」を表出するために

困り感や解決方法の視点などを共有し、どのように自分の表現をよりよくしていけばよいか考えさせる。活動全体の見通しをもたせ、主体的に学びに向かうことができるようにするために、活動計画を黒板に提示する。

(ウ) 「自分の考えを見いだす姿」を表出するために

クイズに必要な、多種多様な情報を提示してヒントの出し方や順序、内容などを自己選択・自己決定できるようにする。

(エ) 「よりよい考えを見いだす姿」を表出するために

各単位時間における展開では、協力し合いながら、見方・考え方を働かせて、表現をよりよくしていけるように、モデルとなる子供の発表を見て、目的に沿って視点をもって話し合う場面を設定する。

(オ) 「自分の考えを再構築する姿」を表出するために

Try や中間フィードバックの後に、グループ間で交流する場面を設定する。本時の学びを生かしてよりよくできるように、学級全体のめあてや、自分のめあてを再意識させ、交流を行う。

(カ) 「自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する姿」を表出するために

自己の変容を自覚できたり、学ぶよさを実感できたりするようにするために、中間フィードバックを中心に活動の都度、自分の姿を振り返るような声掛けを行うとともに、本時の終末で振り返りシートに本時の自分の姿を数値化して表すようにする。さらに、より深く変容などを自覚できるようにするために、単元の最後に、振り返りの観点に即した文章記述での振り返りも行うようにする。

6 指導計画（総時数5時間）

過程	主な学習活動	時間	知	思	主
一次	<p>1. 多様なクイズを楽しみながら、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾の子供より提示されたスリーヒントクイズから、クイズの形式を知り、Big Goalを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><Big Goal>台湾の友だちに自分たちの好きなことを知ってもらうために、くふうして楽しいクイズを作ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> クイズに必要な表現を練習する。 シルエットクイズや漢字クイズ、ピンチアウトクイズなど多様なクイズ形式に慣れ親しむ。 	1	○		○
二次	<p>2. 身の回りの物を用いて、自分が出すクイズの答えやヒントを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> クイズに必要な表現を練習する。 グループでクイズの中身を考える。 <p>Try1:クイズの答えを考える。<i>Culture(背景・文化)</i> Try2:ヒントを考える。<u>これまでの学習</u> <u>必要な情報</u> など</p>	1	○	○	
	<p>3. 相手の解答や反応に応じて、クイズのやり取りをする表現について考え、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> クイズに必要な表現を練習する。 クイズの解答側を意識したやり取りになるように練習する。 <p>Try1:相手の解答に対する返答（正解、不正解など）の仕方を練習する。 <i>Reaction(リアクション)</i> Try2:相手の反応や状況を確認したやりとりのよさに気付く。 <i>Check(相手の様子や表情を見る)</i> ※間や話すスピードなど</p>	1	○	○	
	<p>4. (ジェスチャーや順序などを取り入れて) ワクワクするようなクイズでのやり取りを工夫する。</p> <p>Try1:ヒントの見せ方や聞かせ方の工夫について考え、練習する。 <i>Gesture(ジェスチャー)</i>, <i>Repeat(繰り返す)</i>, <i>Reaction(リアクション)</i> など Try2:効果的なヒントの出し方（出す順序）について考え、練習する。 <u>じゅんじょ</u> <u>必要な情報</u> など</p>	1		○	○
三次	<p>5. 台湾の子供たちと交流しながら、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾の小学生とクイズ大会をする。（オンラインによる交流） Big Goalに対する振り返りをする。 	1		○	○

下線斜体文字は主に他者への配慮項目、囲み線は主に考えを形成・再構築する思考方法項目を示す。（主に働かせたい見方・考え方）

7 本時（4/5）

(1) 目標

自分たちのことをもっと知ってもらうために、動きを加えたり、ヒントを出す順序を検討したりしながらクイズでのやり取りを工夫し、クイズをよりよくするためにグループで協力して考える。

(2) 評価規準

- 自分たちのことをもっと知ってもらうために、動きを加えたり、ヒントを出す順序を検討したりしながらクイズにおけるやり取りを工夫し、クイズをよりよくするためにグループで協力して考えることができる。【思考・判断・表現】
- クイズのやり取りの仕方をよりよくするために、グループでのクイズ作りに進んで参加しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 想定する振り返り

<振り返りの視点> ①できるようになったこと、わかったこと、気付いたこと ②見方・考え方（理由や根拠）
 ③参考になった友達の考え ④これから（できるようになりたいこと、新たな考え）

- ヒントの出し方を何回も練習することで、大きな声でスラスラ言えるようになった。
- 台湾の友達に楽しんでもらうために、ジェスチャーを考えることができた。
台湾の友達に楽しんでもらうために、出す順序を考えることができた。
- 〇〇さんが△△と言ってくれたので□□することができた（□□がよくなった）。
- もっとたくさん英語を使って台湾の友達と交流したい。

(4) 本時で働かせたい外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方(引き出した子供の姿)

- 分かりやすいように、確かめながら、共感的に
Gesture(ジェスチャー), *Repeat(繰り返す)*, *Reaction(リアクション)* など
- 表現方法の選択・決定（伝える順序の工夫）
じゅんじょ 必要な情報 など

下線斜体文字は主に他者への配慮項目、囲み線は主に考えを形成・再構築する思考方法項目を示す。（主に働かせたい見方・考え方）

(5) 本時の展開

子供を意識や反応

○ 指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
問 い を も つ ・ 見 通 す	12 分	<p>《Warm-up》</p> <ol style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 歌を歌う。♪“What’s this?” グループで練習タイムを行う。 Today’s Goalを確認する。 <p><Big Goal>台湾の友だちに自分たちの好きなことを知ってもらうために、くふうして楽しいクイズを作ろう。</p> <p><Today’s Goal> どうすればワクワクするようなクイズになるか、考えながら練習しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の見通しをもつことができるように、黒板に本時の流れを掲示する。 ○ 主体的に英語を活用することができるように、歌やコミュニケーション・クラスルーム・イングリッシュ(CCE)で、本時に必要な表現を繰り返し取り扱う。(“What’s this?”, “That’s right.” など) ○ 自分の問いを見いだすことができるように、練習タイムを行い、課題を出し合う。(ア) ○ Today’s Goal について考えることができるように、板書をもとに前時までの学習を振り返る。(ア)
自 分 の 考 え を も つ ・ 広 げ 深 め る	28 分	<p>《Activity》</p> <ol style="list-style-type: none"> ワクワクするためにはどうすればいいか考えながら、クイズの準備や練習を行う。 <p>「ワクワク」っていうと、体が動き出すような感じがするね。</p> <p>「次何だろう？」って思ってもらった方がワクワクするのかなあ？</p> <p>Try1 ジェスチャー</p> <ol style="list-style-type: none"> ジェスチャーを取り入れたやり取りについて全体で共有し、練習する。 中間フィードバックを行い、改善した点や新たな課題を共有する。 <p>Roll って言うだけでは伝わらないなあ。</p> <p>回す動きを入れながら言えば伝わりそうだね。</p> <p>Try2 順序</p> <ol style="list-style-type: none"> 出す順序について全体で共有し、練習する。 <p>Hint1 で“long ears”と出したらウサギがすぐにわかつちゃう。</p> <p>すぐわかるヒントを先に出すと簡単すぎてワクワクしないかもね。</p> <ol style="list-style-type: none"> 中間フィードバックを行い、改善した点や新たな課題を共有する。 <ol style="list-style-type: none"> グループで交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時で働かせたい見方・考え方について意識しながら、見通しをもって Try ができるように、「ワクワクするようなクイズ」とは具体的にどのようなことなのか、考えを出し合ったり、必要に応じてモデルスキットを示したりして気付かせる。(イ) ○ 表現方法の悩みや疑問を解決することができるように、教師およびJTEが机間巡視しながら、グループに助言をする。(ウ) ○ よりよい表現方法について考えを共有したり、表現がよりよくなったことを実感したりできるように、中間フィードバックや、全体での発表による交流を行う。(エ)(オ)(カ) ○ 順序の大切さに気付くことができるように、「ヒント1とヒント3ではどちらで解答した方がワクワクするのか?」、また、「相手が正解できないような問題をどう思うか?」などについて考える場面を設定する。(イ) <p>※ 自分たちのことをもっと知ってもらうために、動きを加えたり、ヒントを出す順序を検討したりしながらクイズにおけるやり取りを工夫し、クイズをよりよくするためにグループで協力して考えることができたか。【思・判・表】</p> <p>※ クイズのやり取りの仕方をよりよくするために、グループでのクイズ作りに進んで参加しようとしている。【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アドバイスし合って表現をよりよくしていけるように、グループ同士でクイズのやり取りをする場を設ける。(エ)
再 構 築 す る ・ 振 り 返 る	5 分	<p>《Review》</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習のまとめをする。 <p><Reflection> ジェスチャーや出すじゅんじょを考えるとワクワクしたクイズになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習したことを振り返る。 <p><振り返りの例></p> <p>前よりワクワクしたクイズができるようになったよ。なぜなら、出す順序を考えることで前よりも楽しくなったから。○○さんのヒントの出し方がワクワクしたので、自分たちもジェスチャーを入れた。台湾の友だちに早くクイズを出したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のまとめをすることができるように、板書をもとに、Today’s Goal を振り返る場面を設定する。(カ) ○ 活動を振り返ることができるように、Big Goal に対する達成度やその理由を記入する振り返りシートを活用する。(カ) ○ 次時の発表会への意欲をもつことができるように、本時の活動について教師が称賛し価値付けする。

